煌めく富山の女性ロールモデル

～ 農・林・漁業で活躍するトップレディー ～

ロールモデルとは、『模範となる人』として将来こうありたいと目標にする存在であり、スキルや具体的な行動を学んだり模倣したりする対象となる人材を意味します。

はじめに

富山県農山漁村女性活動推進会議は県内の農林漁業関係の６団体で構成され、農山漁村と農林漁業における女性の活躍と、男女共同参画を推進しています。県内には女性農林漁業者がいきいきと活躍されている優良事例が沢山あります。そこで、特に優れた事例を『見える化』し、ロールモデルとして紹介しようと、『煌めく富山の女性ロールモデル～農・林・漁業で活躍するトップレディー～』を作成することにいたしました。

今回、農業や林業に誇りをもって携わり、地域の方々からも厚い信頼と、大きな期待が寄せられている８名の女性にインタビューさせていただきました。そして、就業に至る経緯や、職業あるいは地域活動に取り組む上で、どのように考えて前に進んできたか、また、実際のライフスタイルなどをお聞きしました。

この冊子を読まれた方は、きっと共感や新たな気づきを持たれることと思います。そこから勇気づけられ、未来への一歩を踏み出すきっかけになっていただければ幸いです。

そして、富山県の農林漁業や農山漁村地域の図り知れない魅力や、次世代に向けた夢と希望を感じていただけることを切に願うばかりです。

富山県農山漁村女性活動推進会議　会長　谷井 悦子

掲載にあたり：８名の方へのインタビューは 2019 年 10、11 月に行いました。
内容はその時点のものであることをご了承下さい。

もくじ

Interview

STYLE 1	石村（いしむら） 修子（しゅうこ）さん	南砺市	1
STYLE 2	上野（うえの） 和枝（かずえ）さん	氷見市	3
STYLE 3	江尻（えじり） 美佐子（みさこ）さん	南砺市	5
STYLE 4	大坪（おおつぼ） 順子（じゅんこ）さん	高岡市	7
STYLE 5	御囲（おかこい） 香苗（かなえ）さん	黒部市	9
STYLE 6	庄司（しょうじ） さな絵（え）さん	富山市	11
STYLE 7	宮田（みやた） 香代子（かよこ）さん	富山市	13
STYLE 8	森下（もりした） さゆりさん	入善町	15

活躍する女性組織　活動紹介

富山県農業委員会女性協議会　17

富山県漁業協同組合女性部連合会　18

先輩の声　19

各種窓口　20

石村 修子さん
Ishimura Shuko

南砺市

農業

千華園（せんかえん）

[キーワード]

鉢花

寄せ植え教室

食用花「美食花（びしょくか）」

まちづくり

Profile

１９９９年　静岡県にて修業
２００１年　実家の千華園に就農
２０１３年　独学で食用花（エディブルフラワー）の栽培を開始
２０１７年　JA なんと女性部で部長を務める

鉢花農家『千華園』の２代目として就農。寄せ植えやフラワーバスケットの販売、寄せ植え教室の講師としての活動を通じて、花の楽しみ方を提案。特に、食用花『美食花』は県内外のレストラン、ホテル、製菓店から高い評判を得る。地元が大好きで、市や JA、商工会等と共に地域づくりに積極的に携わる。

—Interview —

■就農のきっかけ

両親が鉢花農家で、子供の頃から花に囲まれた生活をしていました。やりがいのある仕事として、いつか私もと思い、３人姉妹の末っ子なんですが、私が後を継ぐって小学生の頃から宣言していました。

大学は県外の園芸生活学科に進学し、卒業後は静岡県御前崎市の先進農家で２年間修業をしました。そこで、挿し木で増やす多年草の栽培技術を学んだおかげで、扱う花やグリーンの種類が増えました。今、寄せ植え教室ができるのは、そのおかげですね。

■仕事や地域活動のこと

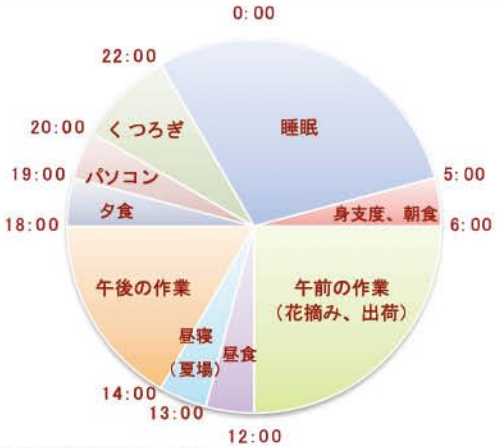
両親は鉢花を、私は寄せ植え教室やエディブルフラワーの栽培をやっています。2001 年に実家に戻り、最初の５年ぐらいは御前崎で学んだことを忠実に守り、両親の仕事を手伝っていました。技術習得した多年草を教室などに生かすため『グリーンアドバイザー』や『ハンギングバスケットマスター』、『寄せ植え華道協会１級』など資格を色々取りました。エディブルフラワーは就農して 10 年ぐらい経ってから始めました。

－エディブルフラワー栽培のきっかけは？

2012 年に縁があって、朝活で学ぶ東京のサラリーマンとの連携事業で、まちづくりを考える『富山の魅力発信プロジェクト 地域プロデューサーコース』に、市の代表として参加することになりました。そこで「南砺市にどうやって魅力を見出せばもっと若者が帰ってきたり、地元を誇りに思ってくれると思いますか？」ということを問題提起し、一緒に考えたんですね。

私は南砺の『里山の食チーム』に入ることになり、最初は食と花は繋がらないと思っていたんですが、「郷土料理のかぶらずし、煮物、よご

１日の過ごし方、使い方



［主な年間スケジュール］

３～６月	春の花壇苗	エディブルフラワーは１年中栽培しています
11～12月	シクラメン出荷	
１～２月	種まき、休暇や確定申告	
１年中	花の管理	

しなど、茶色とか白の料理に花という彩りを添えてはどうですか？」と提案されたのです。そして、築地市場に連れて行かれ、エディブルフラワーに出会いました。そこにあったのは、自分でも作っている花ばかりで、これならできるのではないかと思いました。後は、自分なりに独学で勉強し、色々な人に聞いたりもして、化学肥料や化学農薬を使わない作り方を手探りで研究し、そして『美食花』が誕生しました。

－この他の地域活動について教えてください

なんと農協の女性部にも入り、以前は部長をさせていただきました。その当時、県内各JA女性部が地域の特産物を使ったオリジナルおにぎりを販売する『JA 女性まつり』が初めて開催されました。皆でやろう！という感じで盛り上がりましたよ。女性部は年代が幅広いので、世代を超えた友達が沢山できました。

他にも地元の小学校２年生の『町中探検隊』や、中学生の『14 歳の挑戦』、農業高校の研修も毎年受け入れています。2018 年から小矢部園芸高校の専攻科の非常勤講師もやっています。

家にいて、ゆっくり休んでいたいと思うこともあるけれど、家にいればそれだけのこと。色んな繋がりだったり、社会情勢だったりを学ぶことができるから、結局まちづくりなどが私を外に出してくれるきっかけだと思います。

■モットーや座右の銘

「人生楽しんだもん勝ち」と思って、ずっとわくわくしていたいです。新しいことや楽しいことを探し続けていきたいです。だから外に出て、色々な人の話を聞いてみようと、いつも自分を奮い起こしているんですよ。

■自由な時間の使い方

１、２月に少し自由になる時間ができます。その時、夫と海外に行って、趣味のスキューバーダイビングをします。水中は限られた酸素しかないので深くゆっくりと呼吸をしなければなりません。春夏秋は、地上で走り回っているので、この水中で感じる異空間は、日常の慌ただしさから離れ、１年をリセットさせてくれます。

■新たにチャレンジを考えている方へのメッセージ

オリジナリティとかストーリー性など、何か一つ特徴をもって、大多数にまぎれないようにしていけばいいと思います。ここにしかない物を見つけられたらいいですね。そして、インターネットでの情報発信は必要だと思っていて、私も日記の感覚でこまめに更新しています。

上野 和枝さん
Ueno Kazue

氷見市

農業

Café 風楽里（ふらり）
いなかふれさか

［キーワード］
ブルーベリー
農家カフェ
観光農園
家族経営協定

Profile

１９９８年　夫のＵターンと共に富山県へ、就農に向け準備（夫は技術研修へ）
２００１年　就農、翌年にはブルーベリー摘み取り農園『いなかふれさか』を開園
２００４年　直売所として『Café 風楽里』をオープン
２００８年　家族経営協定を締結し夫婦で認定農業者になる
　　高岡広域圏内の若手女性農業者と『れんげの会』を結成

夫の地元、富山県氷見市にて就農。ブルーベリー農園『いなかふれさか』と、そこでとれた自家製のブルーベリーを楽しめる農家カフェ『風楽里』を営み、これまでブルーベリーのジャムやお茶などの加工品を開発。納屋を改装したカフェは地域住民のふれあいの場として、多くの交流を生んでいる。

—Interview—

■就農のきっかけ

私は福島県郡山市の出身です。夫とは同じ旅行会社に勤務し、自治体への海外視察旅行など企画運営の仕事をしていました。結婚してからは仙台市に住み、私は勤務地の郡山支店まで始発と最終の新幹線通勤で毎日忙しく過ごしていました。なかなか２人の休みが合うこともなく、１年程経った頃、夫の方から会社を辞めて農業をやりたいという話が出ました。

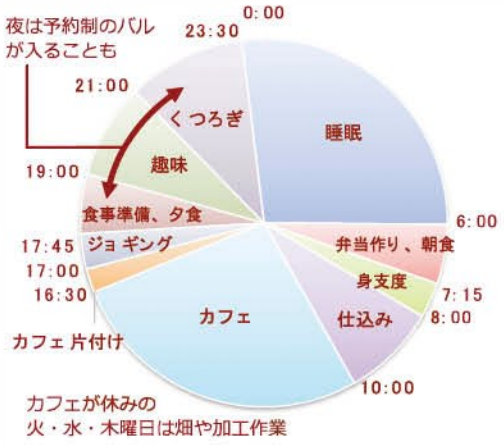
夫は学生時代に自転車で北海道を廻りながらファームステイをした経験があり、それ以来農業に対して強い憧れを持っていたようです。私も初めは驚きましたが、田舎や農業に対して嫌なイメージもなく、自分も新しいことにチャレンジしてみたいという気持ちの方が強かったように思います。それから更に１年間準備をして氷見で生活をしようと決めました。

■仕事や地域活動のこと

ブルーベリーを作ろうと決めたのは、無駄が無いことから。果実は生での販売、摘み取り体験、冷凍保存、ジャム加工、この他、挿し木で苗木を増やしたり、販売することもできます。海外のマーケットでは見た目にも可愛いスモールベリー類が気軽にパックで買えるのも魅力でした。また、滋賀県でブルーベリーを栽培しながらレストラン経営をしている女性の方に色々とお話を聞かせていただき、それが私達の目標とするイメージになりました。

栽培技術は、夫が石川県柳田村（現能登町）の『ふれあい公社』のモデル農場で２年間研修させていただき、農地は親戚や近所の方から借りて、最初は 1,000 本の苗木からスタートしました。ブルーベリーには様々な品種があって、１品種で約２週間の収穫期間を繋いで６月上旬から８月下旬まで収穫が可能です。私達が始めた頃はブルーベリーの生果実は一般的ではなく、味を

１日の過ごし方、使い方



［主な年間スケジュール］

6月下旬～8月中旬　ブルーベリー観光農園

9～5月　ジャム作り体験

カフェは年間を通して、金・土・日・月曜日

知らない方もいました。それでジャムを作って農産物直売所や高岡の朝市で販売することにしました。

－カフェの取り組みについて教えてください

収穫物や加工品の販売、ブルーベリーの食べ方を提案する場として、2004年に自宅横の納屋を直売所兼カフェに改装しました。今では冬季間の収入源、地域住民の交流の場となっています。最近では移住希望の方や外国の方も地元の人との繋がりを求めて集ってくれるようになりました。また、私はカフェと加工を担当し、夫は農園全般と経理とし役割を分担しています。これは『家族経営協定』として書面化して決めたのですが、メインの担当を決めておくことで責任を負う部分が少なくなり、お互い気負わず仕事が出来るようになりました。

－地域での活動を教えてください

保育園児や小学生の摘み取り体験、ジャム作り体験、中学生や農業高校生の企業体験、農業体験など、食育に関わることも多くなりました。『れんげの会』という女性農業者グループにも加入しています。このグループがなければ、知り合えなかった方もいるし、元々農家ではない方もいるので、案外みんな似たような悩みを抱えているんです。会では年に２回研修会を開いて、お互いの活動を聞いたり、最近は商品を持ち寄ってマルシェにも取り組みました。

■モットーや座右の銘

気負わずに自分のやれることをやろう。いつも自分らしく仕事をしようと思っています。もっと広げたら？と言われることもありますが、やれることを続けていきたいと思っています。

■今後の夢

氷見に移り住んで20年。農業を通じて沢山の人と出会えたことに日々感謝しています。その繋がりは今身に染みて本当に有難く感じています。これまではブルーベリーを知ってもらうことに力を注いできましたが、これからはこのカフェを出会いの拠点として、人と人を繋ぐお手伝いが出来ればいいなと思っています。

■新たにチャレンジを考えている方へのメッセージ

まずはやりたいことをやってみるのが大切だと思います。人の体験談をいくら聞いても、前には進みません。自分なりのやり方があるので、それを見つけることが大切ですね。それでも迷っているようでしたら、是非うちのカフェに遊びに来て下さい。

江尻 美佐子さん
Ejiri Misako

南砺市

林業

一般社団法人
moribio（モリビオ）
森の暮らし研究所

[キーワード]
森林整備
森林環境教育
利賀のクロモジ茶

Profile

１９９９年　家族で静岡県から富山県へ移住
２０１２年　『moribio』を設立
２０１４年　『一般社団法人 moribio 森の暮らし研究所』として法人化
２０２０年５月　『TOGA 森のくらし塾』開講予定

『（一社）moribio 森の暮らし研究所』の代表理事として活躍。森林整備や屋敷林の伐採の他、森林環境教育活動や山村資源の活用として『利賀のクロモジ茶』を商品化し販売。2020 年に通年塾としての『TOGA 森のくらし塾』を開講予定。塾では利賀村の豊かな森林空間を教室に、「森を見る・使う・暮らす」３つの力を育み、森林の多様な資源を多面的に、持続的に活用していける人材育成を目指す。

（一社）moribio（モリビオ）
森の暮らし研究所
森に寄り添った持続可能な暮らしを提案する

—Interview—

■就業のきっかけ

こちらに来る前は、静岡県に住んでいました。夫の実家が富山市で、親の介護の関係で戻ることになりましたが、同居より少し離れた所の方がお互いにいいだろうということになりました。

私達は元々アウトドアが好きで、一次産業に就きたいと思っていたのですが、農業は土地の問題や機械施設への投資が大変です。漁業は海に出ている時間が長く、当時は子供も小さかったので難しい。林業は小作人的な働き方として、森林組合の作業員として働ける。機械を持って山に入るけれど、私は二輪に乗るので小型エンジンをいじるのが結構好きなので、だったら林業がいいなと思いました。そして色々手紙を出して、すぐに返事が来た利賀村(現南砺市)を選びました。当時村には『青年山村協力隊』の制度があり、外から来た先輩方が結構いて、役場も仕事や住居など色々相談にのってくれましたね。

■仕事や地域活動のこと

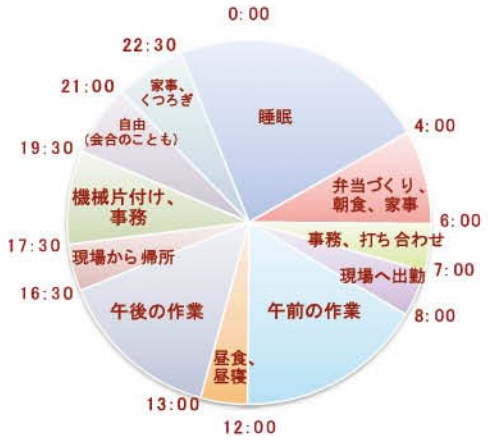
子供が小さい頃は、地元の建設会社でパート事務員として働いていました。2008 年に、利賀村森林組合など５森林組合が広域合併し、できた富山県西部森林組合の仕事を請け負うために、小さな作業班、グループを作ることになりました。それで、夫と私ともう１人男性の先輩の３人で任意の団体として『moribio』を始めました。

夫が現場の親方だったので、取りまとめとか総合指揮は別がいいだろう、何より女性の起業はイメージもいいんじゃないかということで、私が代表になり、そして2014 年には一般社団法人に移行しました。

－クロモジ茶の取り組みを教えてください

法人化にあたって県の『とやま起業未来塾』で学びました。そこで、経営の専門家の先生から「moribio は何をやるの？森林整備の仕事といっても moribio ならではの推しは何？」って。

１日の過ごし方、使い方



［主な年間スケジュール］

6月	雪起こし
7月	下刈り
8～11月	間伐
12～5月	屋敷林整備、枝打ち

それなら「広葉樹を活用しよう！」と思い、利賀に多く自生しているクロモジという木の枝をお茶に活用してはと考えました。一つ形になった物を持つことで、すごく強みになりましたね。

－女性が林業というと大変では？

林業は危険な作業が多く、マニュアル通りにいかないことは沢山です。私の初めての伐採は杉ではなくカラマツ。杉と違って枝が真横に伸びていて思った方向に倒せない。どうやったら上手く伐れるのか、すぐに地元のじいちゃんに教えてもらいに行きましたよ。

雨の日なんかは、伐った木が濡れた倒木の上に落ちて凄いスピードで滑り落ちていく。危険な目に遭ったこともありますが、自分が思った通りに木を伐れたときは爽快です。

実は木を伐るより大変なのは、沢山の荷物を持って山を上がらなくてはいけないこと。チェンソー、燃料、水、弁当など全部で 13 kg近く持って上がる。『雪起こし※』という作業の時が特にきつくて、１巻５kgのわら縄をいくつも持って山を上がるので本当に大変です。

※雪起こし：雪解け直後に、雪の重みで曲がってしまった若い木を縄で引っ張って起こす作業

■モットーや座右の銘

置かれた場所で花を咲かせたいと思っています。女性は○○家のお嫁さん、○○さんのお母さんとか、個人より関係性の中で呼ばれることが多い。でも、子育てはすごく楽しいし、もっと男性と違う視点で人生を楽しんでいいんじゃないかな。

■今後の夢

仲間と、酒を飲みながら盛り上がった『森の大学校』という地域活性化構想があります。これは利賀地域そのものを大学に見立てたもの。実は、利賀は日照量が少なく傾斜もきつくて真っすぐな木が育ちにくい。でもそれは人間の都合であって、この森の持つポテンシャルはもっと高いんです。2020 年から利賀の山村暮らしの知恵と技術を学ぶ『森のくらし塾』を通年塾として開講します。今はその準備で忙しいですね。

■新たにチャレンジを考えている方へのメッセージ

皆さん人に迷惑をかけたくないのか、遠慮して自分で調べたりされますが、実際に会って直接お話しを聞くのは、どの情報源よりも面白く大切なことです。林業はスパンの長い産業。何かに取り組んでも、結果が出るのがずっと先でやり直しも難しい。でも同じことを考えて、先に試した人は結構いるんです。例えそれが失敗だったとしても、やり方を変えて活かせますよ。

大坪 順子さん
Otsubo Junko

高岡市

農業

Jun Blend Farm（ジュン ブレンド ファーム）
Jun Blend Kitchen（ジュン ブレンド キッチン）

[キーワード]
米、野菜
農家レストラン
JA フレッシュミセス

Profile

２００６年　結婚し富山県へ、就農
２００７年　農園『Jun Blend Farm』を開始、西洋野菜に取り組む（現在は米が中心で、野菜は Kitchen 用として少量栽培）
２０１１年　『Jun Blend Kitchen』をオープン

夫の地元高岡市で就農。夫と共に米と野菜の他、自らの担当部門として農家レストランを営む。農園とキッチンの名前は順子の『Jun』と土・水・肥料という野菜づくりに欠かせないスパイスを混ぜる『Blend』が由来。地元農産物を使ったメニューが好評。高岡市農協の若手女性の会（フレッシュミセス）の部長を務め、農業と地域の交流活動に積極的に取り組む。

—Interview—

■就農のきっかけ

私は宮崎県の出身で、家業が生花店で、小さい頃から花屋さんになるための教育を受けてきました。そのために高校も農業高校、東京の花の専門学校に進学し、それから長野の花屋で修業をして、いつかは戻って花屋になろうと思っていました。

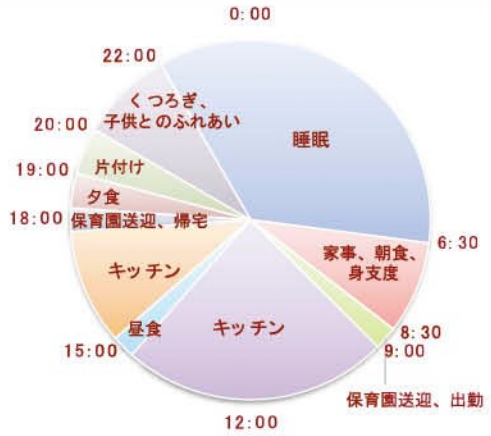
長野にいた頃、農業を志していた夫と知り合ったのですが、実家の父が「農業をやっている人に悪い人はいない！」と言ってくれて、大坪家も私の席を空けて待ってくれているような雰囲気でした。私も花屋はどこでもできるかなと思えて、結婚して富山に来て農業を始めました。

■仕事や地域活動のこと

私達夫婦の目標は農業を一緒にやることだったのですが、当時は面積も少なかったので、夫は他に働きに行き、義父と一緒にまず私が農業をすることになりました。また、米作りの合間の時間を利用して「パートで稼いでくるぐらいの野菜を作ろう！」と考え、地元の直売所では見かけないような西洋野菜を作り始めました。

結婚して５年ぐらい経って、そろそろ２人で農業をやろうと思っていた時に、高岡市の『アグリピア高岡農産物直売所』内のキッチンスペースの入居の話が出ました。私は食品衛生責任者の資格を持っていたのと、当時私達は、住んでいたアパートのお年寄りにお正月用の餅を作ってあげていたので、ここなら手広くできるかなと思いました。何より、西洋野菜を通じて知り合った料理教室の先生や、その道の専門の方々が手助けをして下さって、もうやるしかないという状況になっていました。キッチンの看板メニューは、野菜たっぷりで自家製ドレッシングでいただく『ブレンドサラダプレート』宮崎名物『チキン南蛮』です。なるべく地の物にこだわって出すようにしています。

１日の過ごし方、使い方



［主な年間スケジュール］

4～9月	米作り
4～5月	麦の切り花販売
12月	餅つき体験
1～3月	チューリップ切り花販売

キッチンは米作りの繁忙期にお休みすることもあります

ここは、赤ちゃん連れのお母さんから、お年寄りまで幅広い方が利用されていて、長靴で来られる方もいて、なんとなく入りやすいんでしょうね。平日も結構人が来られるので、今は6、7人の方に働きに来てもらっています。皆さん時間を固定せず、朝の仕込みだけとかお皿洗いだけとか、働きたい時間に来るスタイルにしています。調整は大変ですが、短時間に集中して頑張って下さるので、人手不足の時代に営業していくためにはそれしかないと思っています。

－JAのフレッシュミセスの活動について

地元JA高岡の若手女性の会に入り、部長をしています。現在は全盛期の５分の１ぐらいの会員しかいませんので、これだけは大事にしてやりましょうというのを２本ぐらい決めてやっています。会議も負担が無いように回数を減らしてスリム化しています。

毎年『わくわくキッズひろば』という、親子が気軽に参加できるイベントを企画しています。地元野菜を使ったピザ作りは、釜を持っているお風呂屋さんの協力を得て開きました。視察ツアーは、市内の牧場見学と、そこで取れたミルクのアイスを食べて楽しみました。会員や農家だけで考えていても視野が限られてしまうから、商業や地域に根差して頑張っている方々と一緒になった活動をしたい。そして、その中にも『Jun』らしさを追求していきたいですね。

■モットーや座右の銘

人のやらないこと、やりたがらないことを進んでやろうと思っています。

■今後の夢

ここのキッチンでは、朝に100円コーヒーを出していて、お年寄りの憩いの場となっています。口コミで、お孫さんに「いいお店あるよ」って広まればうれしいです。それと、私の中に花屋の夢はまだあって、今は高岡産のチューリップ切り花を花束に加工して直売する取り組みもしています。私達夫婦としては、農業は、食だけでなく国土を守っていると考えているので、これからも農業を続けていきたいですね。

■新たにチャレンジを考えている方へのメッセージ

新しい物を買うとか使うより、元々ある物を有効活用することが大切です。私達もこの施設に恵まれましたが、うまく見つけられれば近道になります。地元の施設は、地域貢献になって、活用することで土地に住んでいる市民としての役割を果たせられると思います。

御囲 香苗さん
Okakoi Kanae

黒部市

農業

bossa farm（ボッサ ファーム）

[キーワード]

ブドウ

干しブドウ加工

働きやすい環境

Profile

２０１１年　結婚し御囲（おかこい）家に嫁ぐ
２０１２年　水田を果樹園にし、露地ブドウ栽培を開始（夫をサポート）
２０１３年　ブドウ園に併設する直売所をオープン（直売の中心的役割を担う）
２０１５年　自家ブドウを使った干しブドウ加工を開始

黒部市で米とブドウを栽培し、直売を中心に販売。bossa(ぼっさ)とは御囲家の屋号。ブドウは生果販売だけでなく、『マスカットベリーA』を使った自家製干しブドウが他には無い味わいで好評。各種交流会やマルシェにも積極的に参画し、女性農業者や異業種との活動の幅を広げている。

—Interview—

■就農のきっかけ

私は南砺市城端の出身で、実家は兼業農家でした。田んぼのお手伝い程度はやっていましたが、本格的に農業をしたのは農業高校に入ってからで、そこで花や野菜を勉強しました。

夫はブドウ作りを山梨県で学び、富山市内のブドウ農家に就職し、2008 年から地元で独立して米とハウスを中心にブドウ栽培を始めていました。私達は 2011 年に結婚しましたが、次の年ぐらいから、水田に暗渠を設置して果樹園を作り、2013 年には果樹園の横に直売所を建てました。私も夫をサポートする形で徐々に、農業に携わるようになりました。

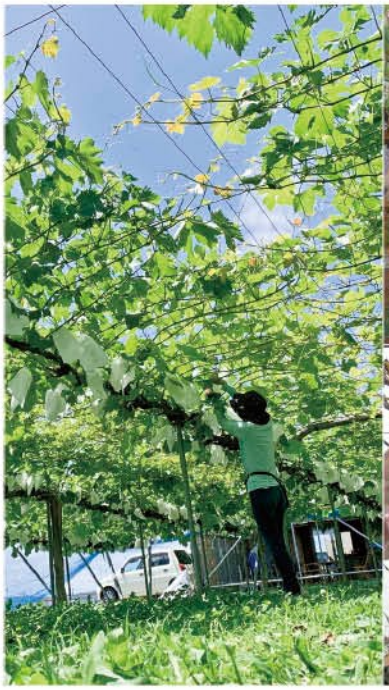
それまで果樹栽培の経験がなかったのですが、技術は夫から教えてもらいました。ブドウは手作業が多く、手間はかかりますが、一房一房愛情こめて育てるのが楽しいですね。

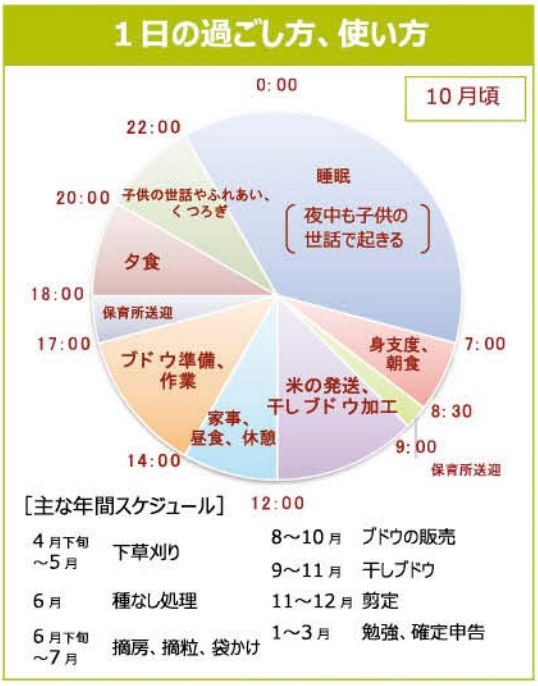
■仕事や地域活動のこと

私は栽培の作業もやりますが、直売と干しブドウ、支払い業務、広報、パートさんのシフト管理などが担当です。夫は技術面の中心で、総合プロデュースをしています。

結婚して約９年。昨年、一昨年は妊娠・出産で体調を崩してしまい、思うようにブドウ園を手伝えず、ヤキモキして過ごしたこともありました。でも、私達２人の労働力以外に、アルバイトとして 40～60 歳代の近所の女性の方が５人程度作業に来て下さっているので、大変助かっています。働き方はそれぞれの都合に合わせており、２時に子供のお迎えがあるとか、午前中しか出られないという方もいます。お子さんが風邪をひいたら休んでもらったりもします。今は、私自身もそういう立場で気持ちが分かるので、柔軟に対応したいと思っています。

作業は、外仕事なので完璧な服装で日焼け対策をしていますが、ブドウの葉は上の方にある





ので直射日光が当たらず、暑苦しさがなくて作業はしやすい方です。それよりも、立ち仕事で腕を上げているのが疲れるので、少しでも楽になるようにと思い、最近、誘引作業の時に枝を結束する道具に、軽量のものを導入しました。

－直売や干しブドウについて教えてください

ここの直売所は8月下旬～10 月下旬の土日祝日のみオープンしています。現在約20品種を扱っていて、お客様と直接お話をして、試食をしてもらい、それぞれのブドウの特徴を丁寧にお伝えし、ニーズに合うものを提供するようにしています。

干しブドウは『マスカットベリーA』という、食用兼ワイン用品種を使っています。傷んでいない綺麗な粒だけを使い、洗浄、温湯消毒、乾燥をします。油や砂糖でコーティングしていない、品種独特のバランスの良い酸味と甘みが濃縮していますし、大粒で肉厚なのも特徴です。私達の干しブドウは種があるのですが、種は栄養価が高いので、案外喜ばれるんですよ。

ブドウがきっかけで、シェフ、ジャム屋さん、野菜ソムリエ、色々な方と繋がりができました。店舗を持っている農家どうしで、お互いの商品を置きあったりもしています。

県の『なやマルシェ』という女性農業者のマルシェ企画にも参加し、県内各地の女性農業者とも知り合いになれました。私は、色々な方とお話するのが好きで、お話をして新たな発見もあるので、とても楽しいですよ。

■モットーや座右の銘

とにかく、今は仕事だけでなく家事や育児で毎日忙しいですが、いつも「何とかなる、何とかしよう」という気持ちで頑張っています。

■自由な時間の使い方

お風呂にゆっくりつかって、リラックスしています。時々、外から子供の泣き声が聞こえてきたりしますが、夫がちゃんと見てくれているのでホッとしています（笑）。

■新たにチャレンジを考えている方へのメッセージ

思っていることをどうやって実現できるかですね。農業だったら、農林振興センターの方に相談したり、やりたいことを言葉で発信することが大切です。今ならそれがインターネットでもできる。それを誰かが見つけてくれて、新しい展開が広がることもありますよ。

庄司 さな絵さん
Shoji Sanae

富山市

農業

庄司梨園

[キーワード]

呉羽梨

農業女子プロジェクト

働きやすい環境

Profile

１９９７年　梨農家の長男と結婚、会社員として旅行会社に勤務
２００９年　第２子出産を機に退職
２０１１年　第３子出産後本格的に農業に携わる
２０１５年　農業女子 PJ（プロジェクト）のメンバーとなる

呉羽梨の伝統ある果樹園で直売を中心に梨を販売。前職の旅行会社勤務の明朗快活な対応が好評。専業農家の大変さも「楽しくてやりがいがある」と PR。何事にも前向きな姿勢で県内の若手女性農業者の交流会やマルシェ企画では中心的存在。国の農業女子プロジェクトにも携わり、女性の働きやすい職場環境づくりに取り組む。

—Interview—

■就農のきっかけ

私は呉羽の梨農家に嫁ぎましたが、結婚してしばらく外に働きに出ていたので、農業は手伝う程度であまり関わっていませんでした。第２子の出産を契機に退職して、第３子の出産もあり、家にいた時期があったのですが、義父が怪我をしてしまい、義母も介護にかかりきりになり、夫と私でやるしかないという状況になりました。

家族は私に、農業をやれとは言いませんでしたが、うちは明治時代から 110 年以上続く伝統ある梨園。面積も２ha ぐらいあって、私の中で、しっかり次世代に残さなければならないという思いが生まれました。

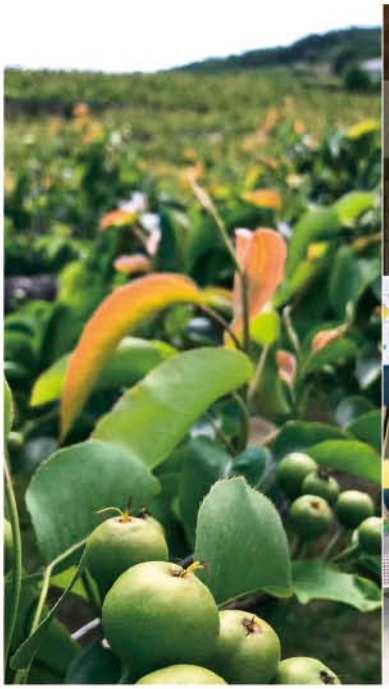
昔は爪に泥が入るのも嫌だったのですが、農業だったら子供達の成長も身近で見守れるし、それなりに稼いで生活もできる。私さえクリアすれば、皆がハッピーになれるんだと思った時、「よし！本気でやってみよう」と決心しました。

■仕事や地域活動のこと

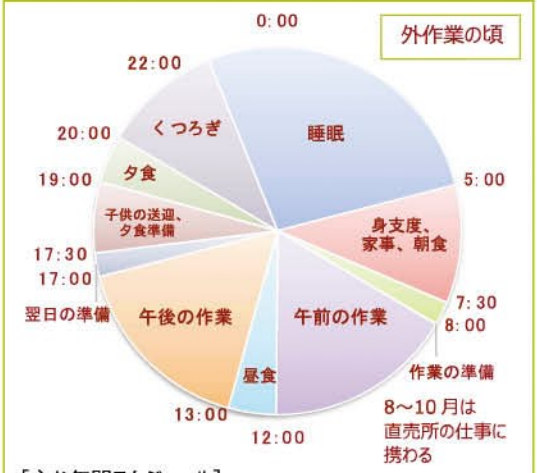
うちの梨の品種は主力としては幸水（こうすい）、豊水（ほうすい）、あきづき、新高（にいたか）、この他最近人気の秋麗（しゅうれい）、南水（なんすい）、甘太（かんた）などや洋ナシも栽培しています。早生品種の幸水の収穫に影響しないよう、中生や晩生をバランスよく、そして自分達が食べて気に入った品種を入れています。

面積が多いのと、梨は冬も剪定や誘引などの作業があるので、女性のパートさん３名に通年で来てもらっています。あとは夏の忙しいシーズンに学生アルバイトさんを頼みます。梨農家でこうやって身内以外の方を通年で雇用している所は少ないと思います。皆さん長く来て下さっていて、技術面でも頼りにしています。

農業をやってみて感じたのですが、外の作業は自然に囲まれて気持ちがいい。それに夏秋の自宅直売所は大変賑やかで、梨を心待ちにして下さるお客様とのやりとりが楽しくて、これがまた農作業への活力になります。



１日の過ごし方、使い方



［主な年間スケジュール］

4月	人工受粉	8～10月	梨の出荷、直売
5～7月	摘果、摘心	10～1月	剪定
7月下旬～8月上旬	忙しい前の夏休み	2～3月	誘引

－国の農業女子プロジェクト活動について

自分で申し込んで2015年からメンバーになりました。当時、私は横の繋がりを求めていて、農業の場合、表に出るのが夫だったり、お義父さんだったりで、私の存在って隠れてしまうんです。「私はここにいる。誰か見つけて！」という心境でした。農業をやっている女性は、結構いらっしゃると思いますが、家で働いているので誰が何処にいるか分かりにくいんですね。

このプロジェクトは農林水産省の事業で、企業の商品開発に女性農業者の視点を生かす取り組みです。私は、着用する物の重要性を感じていたので、実際に使用する人の意見を取り入れて欲しいと思い、フィールドウエアメーカーのプロジェクトに参加しました。開発品は着心地が良く、通気性、耐久性に優れていて、プロジェクトのものは何よりおしゃれで着ていて気持ちがいい。外の作業で不快に長時間過ごしても効率が悪くなるだけ。小さなことですが、快適に仕事をすることの大切さに気づかされました。

またプロジェクトを通じて、全国や県内のメンバーとも知り合いになれました。今は県主催の女性農業者の交流会やマルシェ企画にも参加して、どんどん仲間の輪が広がっています。地元では吉作地区の『三水会（さんすいかい）』という梨農家の女性の会にも入っています。世代は私より上の方が多いですが、これから若い世代も加入してくれたらいいですね。

■モットーや座右の銘

自分もですけど、やってもらっている人にも、「楽しく、そして気持ちよく」を心がけています。

■今後の夢

うちの梨園をどうこうというより、今は地域全体の梨の産地活性化に寄与したいと思っています。農業は、見えない所で奥さんが支えているので、高齢化や後継者の問題を嫁の立場で支えるにはどうしたらいいだろうかと、考えています。地域のつながり、横のつながり、そして親子のつながりを大切にし、100 年後もこの産地が続いていくようにするには、私自身がこれからも明るく楽しく農業をして、それを子供達に伝えていきたいです。また、農業体験や観光など、人と農業をつなげて産地を賑やかにする活動も取り組みたいと思っています。

■新たにチャレンジを考えている方へのメッセージ

外に出て色々な人に会って、話を聞いて欲しいです。そういう中に、今は壁だと思っていることの乗り越え方やヒントがあったりします。少しずつでいいので、現状を変えてみてください。

宮田 香代子さん
Miyata kayoko

富山市

農業

有限会社
小原（おはら）営農センター

[キーワード]
有機農業
代表取締役
農協理事

Profile

１９９８年　有機栽培を行う農業法人『有限会社小原営農センター』に就職
２０１４年　代表取締役に就任
２０１７年　あおば農業協同組合の理事に就任

安心して食べることができる美味しい農産物を作りたいとの思いから、（有）小原営農センターに従業員として就職し、現在は代表取締役。農地は有機 JAS 認証取得を基本とし 60ha を超える規模は県内最大。有機加工食品も手がける。何事も真摯に取り組む姿勢で、経営者としてのみならず、地元あおば農協の理事としても地域農業の振興と農村の活性化に向け尽力。

—Interview—

■就農のきっかけ

祖父母の代まで我が家は専業農家でした。両親は兼業でサラリーマン。家の周りは田んぼばかりの環境で育ちました。大学は県外で、戻って何年かは OL をしていました。

農業はいずれやりたいと思っていましたが、当時それだけで生活できるとは思えなくて、職業として選択するのは難しかったですね。

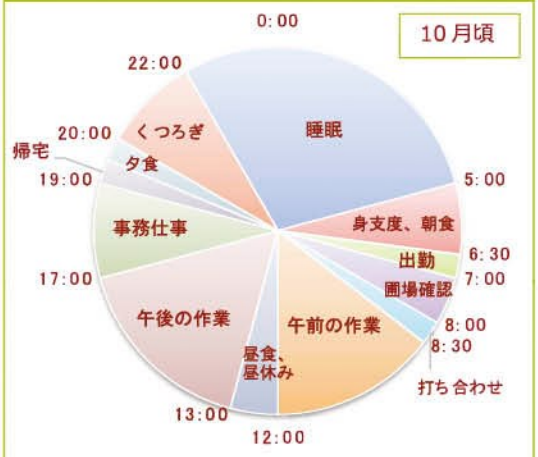
その考えが変わったのは、県外に出た時。食生活が変わって、富山が農産物や魚介類に恵まれている土地なのだと認識させられました。勤めだしてからは、さらに農業というものに惹かれていき、逆に、どうやったら農業で食べていけるかを考えるようになりました。有機農業を知った時は、私が目指しているのはこれだと思いました。というのも、私自身、食べることが好きで、真に美味しい食べ物を突き詰めるとそれは素材本来の良さであり、農薬に頼らない、自らの生命力で育ったものであると、素直に信じられたからです。

それで、有機米を作っている農家に直接話を聞きたくて探すうちに、たまたま小原営農センターを知って、お米の作り方を教えて欲しいと言ったら「そんなもん２、３年じゃ身につかないから働きに来られ」ということで正社員になりました。

■仕事や地域活動のこと

私は４代目の代表です。私たちの会社では血縁関係で引き継いでいません。小原の創設メンバーは県外の非農家出身で、米が作りたくて移住して来ました。その精神は今も受け継がれています。当時は土地も多くはなかったのですが、時代が変わり、生産者の高齢化と後継者不足から１件請け負うと、その隣もとなって、徐々に田んぼが集まってきました。

１日の過ごし方、使い方



［主な年間スケジュール］

4～10月	米栽培	6～3月	ハウスで葉物野菜
5～11月	大豆栽培	1年を通して	
10月中旬～3月	餅加工		露地野菜（キャベツ、枝豆、サトイモ、レンコン等） 加工品（納豆、豆腐）

－有機農業でそれだけの面積は大変では？

うちのお客さんは遠くの方が多いので、生産物に対する安心感をしっかり担保しようと思い、有機 JAS 認証を取得しています。有機は栽培にも生産行程の管理にも手間がかかりますし、面積が増えると従業員を雇う必要があり、17 年前から新卒を採るようになりました。

週に１回全員でミーティングをして、作業の進捗状況を確認しあいます。基本的に作業はリーダーを置いて進めるのですが、生育管理は各々が担当する田んぼを持っており、節目には皆で生育を確認し、今どんな管理が必要かを話し合っています。

－農協の理事としての活動も教えてください

あおば農協で現在理事をさせていただいています。あおばでは女性の理事を旧の町単位で１名ずつ立てており、現在４名います。私は農協の直売会の役員を務めていた関係で、農協と繋がりがありました。

理事会では農協の運営だけではなく、地域の課題も話し合います。特にうちの農協は中山間地域を抱えていて、私も意見を求められたりします。これまでと違う立場や視点で意見を述べたり、司会を務めたりと、慣れないことも多くありますが、先輩の理事さんから教わりながらやっています。

農業と農協に関わるようになって、地縁が大事だと感じています。圃場の特徴を把握し、地の利を活かすことも、近隣の生産者さんとの付き合いも大切です。うちの米を食べてくれる人がいて、私たち作り手がいて、有機の圃場を広げることができれば、環境にやさしい状態で農地を維持できる。だから守人としての責任を果たさなくてはと思っています。

■モットーや座右の銘

先延ばしにしないということを心掛けています。農業でも何でもそうですがタイミングがあって、それを逃して後からやると、ものすごく大変になる。ですから優先順位をつけてタイミングをちゃんと見極めようと思っています。

■新たにチャレンジを考えている方へのメッセージ

発想がかけはなれたものだと、手がけても達成度が分らず大変だと思います。自分の生活や身近なものから始めて、長く続けると、逆に新しい発見に繋がると思いますよ。

森下 さゆりさん
Morishita Sayuri

入善町

農業

有限会社
グリーン森下

[キーワード]
大規模農業法人
入善ジャンボ西瓜
モモ、パプリカ
おいしいやさい部

Profile

１９９１年　結婚し就農
１９９４年　有限会社グリーン森下の設立に伴い取締役に就任
２００８年　園芸品目としてモモを導入し、園芸部門を担う
２０１６年　みな穂農協管内の農業女子らと『おいしいやさい部』を設立

米、大豆、ジャンボ西瓜を主に経営する（有）グリーン森下の取締役として経理と園芸部門を担う。園芸品目の拡充にモモやパプリカを導入。地元の若手女性農業者に呼びかけ、野菜作りの基礎を学び、互いの経営発展機会を創出する『おいしいやさい部』を設立。地元直売所の盛り上げに貢献。

Green morishita
グリーン森下

—Interview—

■就農のきっかけ

私は非農家のサラリーマン家庭で育ちました。高校卒業後は地元で就職しましたが、1991 年に結婚することになり、それと同時に就農することになりました。農業と無縁で暮らしてきたので、農業に対する抵抗感はありませんでした。実は結婚する３年前に夫の母が他界され、家には体の不自由な祖母もいらっしゃった。農業だけでなく、家のことも殆ど私がやらなくてはいけない状況でした。さらに結婚してすぐに子供に恵まれ、仕事、家事、育児と、全てが一度にやってきて、もう叫びたい状態でしたね。

森下家は当時、米と大豆や大麦、さらにジャンボ西瓜も作っている専業農家。家族労働が中心だったので、少しでも森下家の糧になりたい、何より、18 歳という若さで就農した夫の力になりたいと思って頑張っていました。

■仕事や地域活動のこと

私も、トラクターやフォークリフトなど色々な機械に乗って仕事をしてきましたし、西瓜の技術も義父から学びました。さらに、初めから農業と家の帳簿や通帳の管理を一切任されたので、簿記も勉強してきました。

1994 年頃から面積が拡大してきたので、家族だけではやっていけない状況になりました。外部から人を雇うには厚生年金など社会保険制度が整った会社経営がいいだろうということで法人化を決め、私は取締役になりました。会社の経営方針をどうするか、夫と考える時に経理を担当していたことは大変役に立っています。法人化後は経営面積が順調に拡大し、現在約 66ha の規模になっています。

2008 年には、みな穂農協が『プラスワンアクション大作戦』事業として園芸品目などの導入を支援していたので、その推奨品目の１つだったモモに着目して、取り組むことにしました。

1日の過ごし方、使い方

［主な年間スケジュール］

3～9月	米	2～8月	モモ
6～10月	大豆	3～8月	ジャンボ西瓜
3～12月	パプリカ		

7、8月はモモ、ジャンボ西瓜、パプリカの収穫・出荷のピーク

モモはジャンボ西瓜の販売時期と一緒だったことからセット販売ができると考えたのです。でもはじめは全然売れなかった。バラで売って、近所の方が買って下さって、口コミで広がって「おいしかったよ！」って言われた時は本当にうれしかったですね。

－地域の女性農業者との活動について

就農して家族から、同じ専業で頑張っている女性農業者が集まる地元の会があるから入るように言われました。ここの地域は男性も女性もそういった会が色々あるんです。最初は若くして就農している女性はいなくて、自分の親ぐらいの世代の方ばかりの中で恐縮していましたが、徐々に、同世代の仲間も入会してきました。『真樹の会』という交流が目的の会があるのですが、お互いの農業の楽しみや悩み、思いを話すことで、みんな同じ思いで頑張っているんだと知り、私も頑張ろうと前向きになれました。

2016 年には、この会のメンバーの何人かで「もっと野菜の栽培を基本から勉強したいよね！」という話が盛り上がり、やるからにはしっかり取り組みたいと思ったので『おいしいやさい部』を結成しました。今、直売所に野菜を出している先輩世代が作れなくなった時に、私達が直売所を盛り上げていかなくてはいけない。そのために今から勉強していこうと思ったんです。毎年テーマの野菜を決めて、これまで、ラッカセイやカリフラワー、ニンジンを勉強してきました。種苗会社に研修に行ったり、皆でマルシェに出店したり、活動の幅がどんどん広がっています。

■モットーや座右の銘

私は、昔から失敗を恐れないタイプです。失敗するかしないかって、やってみないとわからないと思っています。

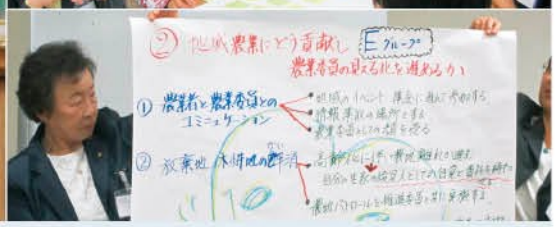
■今後の夢

入善町、朝日町には先輩の女性農業者が沢山頑張っていて、70代、80代でも現役バリバリです。定期的なイベントもしっかりこなされ、自分も将来そういう風に地域に貢献したいですね。

■新たにチャレンジを考えている方へのメッセージ

やりたいと思ったことは思い切ってやってみたらいいと思います。はじめから大きなことはできないけど、小さなことでもチャレンジして、経験してわかることがある。最後は誰かが認めてくれる。見ていてくれる人っているんです。

活躍する女性組織　活動紹介　　富山県農業委員会女性協議会



農業委員会は、地域の農業・農村の発展のため、市町村に設置されている行政委員会で、2016 年に制度が改正され、それ以降『農業委員』と『農地利用最適化推進委員』（以下推進委員）で構成されるようになりました。

農業委員、推進委員いずれも女性や青年農業者、認定農業者などの担い手や、地域農業・農村の振興に取り組む住民なども含めて多様な人材が選ばれており、①農地を守り生かす取り組み②担い手の育成③農政活動④地域活動⑤情報活動が行われています。

富山県では 2019 年 6 月現在で、農業委員、推進委員において 31 名の女性が登用されており、全ての市町村で 1 名以上となっています。また『富山県農業委員会女性協議会』を組織し、資質の向上と連携強化、そして女性の更なる登用拡大にむけて活動をしています。当協議会の会長の朝日俊子さん（砺波市、写真左）と副会長の久世キヲさん（立山町、写真右）にその内容についてお話しを伺いました。

■農業委員会の主な活動

会長：農業委員会は現在、担い手への農地集積や大規模化を進める仕事が必須業務となっています。富山県の農地集積は全国的に見ると進んでいますが、やはり圃場条件の良否は集積に影響します。農地パトロールを通じて遊休農地を把握し、農業を再開するよう勧めたり、離農される方の農地をまとめて担い手に受けてもらうように推進しています。また、関連して、農業の担い手や地域農業のあり方などを定める『人・農地プラン』の作成、見直しにも協力しています。この他、農業者年金の推進や、食育や地産地消などの地域活性化に向けた活動も重要な仕事です。

■富山県農業委員会女性協議会の活動

会長：主に県域の研修会を年 2 回程度開催し、農地法や農地転用の勉強をしています。女性にとって聞き慣れない専門用語が多く、内容は難しいと思います。私も農業委員は 4 期目ですが、2 期目ぐらいからやっと話の内容が分かってきました。難しいからと 1 期で辞めたりせず、是非継続して欲しいですね。私達は 2026 年までに女性の農業委員、推進委員を県全体で 50 名、各市町村では複数名の登用を目指しています。

副会長：農業委員会はまだ男性が多いですが、女性の意見も聞いてくれる雰囲気になってきました。年に 1 回、北信越ブロックの女性の農業委員会の研修がありますが、積極的にお話をされる他県の皆さんからは大変刺激を受けています。

■女性ならではの取り組み

副会長：農業者年金の推進の際、女性農業者に対しては、女性の方が話しかけをしやすいですね。私は女性も年金ぐらいは自分のお金で掛けた方が良いと思っておりますので、直売所などで野菜や加工品を売ったりして、少しでも自分の収入を得るよう勧めています。

会長：砺波市の農業委員会では JR 砺波駅周辺の遊休農地にひまわりを播く活動をしました。1 万本のひまわりが咲き、地元からも大変喜ばれました。発案は私ですが、トラクターで耕起して種を播く作業は、男性陣の協力を得て実現できました。

女性は家庭もあって忙しいけれど、外に出ることで色々な意見を聞くことができて、なにより自分が変わりますよ。もし農業委員にどうですかというお話があれば、是非携わってみて下さい。

活躍する女性組織　活動紹介　　富山県漁業協同組合女性部連合会

富山県漁業協同組合女性部連合会は 1961 年に設立し、女性の立場から明るく豊かな漁村づくりに努めてきました。朝日、入善、くろべ、滑川、新湊の５つの漁協女性部で組織し、2019 年度現在の会員数は 234 名です。浜の暮らしを少しでも豊かなものにしようと、部員一人一人が自ら知恵を出し合うことから始まった活動は、魚食普及活動、漁協系統運動、漁村・漁場の環境保全の推進など多岐にわたり、暮らしに密着したものとなっています。

県内各地で行われる海にまつわるイベントでは、カニ鍋や大漁鍋等を提供し、訪れるお客様に大変よろこばれています。

■魚食普及活動

地元の魚を自分たちで調理して食べてもらいたいとの思いから、短大や高校等で『魚の捌（さば）き方教室』を行っています。近年は、家庭で魚を丸ごと捌く機会が少なくなりましたが、若い世代に技術を継承していきたいと考えています。

小学生を対象とした食育教室では、富山湾に生息する魚を紹介し、豊かな水産資源を守ることの大切さを伝えています。学校給食では地元の魚を使った魚料理を提供し、地元ならではの食べ方や、地域に残る魚食文化や伝承料理を紹介し、地産地消にも貢献しています。

■環境保全の推進活動

海の環境を守るため、地域ぐるみで海や浜の清掃活動や、漁船からのゴミの持ち帰り運動への協力を呼びかけています。家庭用洗剤にも、天然石けん素材のものを使用するよう推進し、環境負荷の軽減に努めています。

■会としての活動

年に１回、５つの漁協女性部員が集い、漁協女性部リーダー研修会を開催しています。研修会では体験型の工場見学や、県内の話題の施設を視察し知見を広めるとともに、部員の親睦と相互理解を深めています。

■富山のさかな PR 活動

『富山のさかな』を首都圏のマスコミ等に PR することを目的として毎年開催されている『富山のさかなおもてなしフェア』に部員も参加して、富山湾産魚介類を使用した浜の料理を提供し大変好評を得ています。

先　輩　の　声

若い世代へのメッセージ

JA 富山県女性組織協議会　会長　谷井　悦子　さん

仲間と共に！

JA 富山県女性組織協議会は、県内の 13JA 女性部から構成されています。2017 年に、部員が一堂に集う女性部らしい取り組みを行おうと『JA 女性まつり』を開催しました。初めての取り組みだったので手探りの状態でしたが、意見集約や段取りなど各女性部長や事務局の協力を得ながら進めました。そして、各地域の特産物を使ったおにぎり 2,800 個を販売し、お米の消費拡大を PR できました。翌年の第 2 回目は、おにぎりプラス伝統料理、おふくろの味の販売。第 3 回目は、朝乃山関が学生時代によく食べて力をつけた『ちゃんこ鍋』も販売して大盛況でした。

私はいつも、女性部の活動を通して、元気な笑顔で仲間と集うことができる喜びを感じています。これからも伝統を守りながら、時代にマッチし、若い人達に受け入れられるような組織作りに努力し、地産地消と安全・安心な農業の推進を通じて、次の世代を担う子供たちが健やかに成長してくれるよう、活動を続けていきたいと思っております。

富山県漁業協同組合女性部連合会　会長　尾山 春枝　さん

異業種との交流を！

漁家に嫁いでもう 60 年になります。はじめは家事や育児、次に漁業の習慣や文化、更には経営のノウハウなど、わからないことばかりの私でしたが、多くの皆さんに助けていただきながら、今も大好きな漁業に携わっています。

さて、女性部の諸活動は交流の場を通して女性の成長を助けてくれます。一方、これまでは活動の低迷等により、壁にぶつかることも度々ありました。そんな時、私は日頃からお付き合いのある県や市の職員の方などからアドバイスをいただき、幾度も助けてもらいました。

困った時は、自分達だけで解決しようとせず、色々な方から意見を聞くことが大切だと思います。その為には、日常的に異業種の方々と交流を深め、より多くの人脈や広い視野を培うことも、いきいきと煌めいた魅力ある女性となる秘訣だと思います。

富山県地域活性化グループ協議会　会長　弓野 良子　さん

世代を超えた交流で！

昭和 63 年、もうすぐ平成になろうとしている頃、友人に誘われ朝日町の農村婦人グループに入り 30 年が過ぎました。義母のいない農家に嫁いだ私は、田畑の仕事以前に家事と 3 人の子育てに一生懸命でした。そんな私に、村の習わしや人との付き合い方を教えて下さったのは、集落のおばあちゃん達でした。営農組合の大豆や小松菜の収穫作業の際には、不慣れな私を見て、先回りしてそっと私の分まで収穫して下さいました。一緒に汗を流し、休憩の時には皆で畦道に腰を下ろして、楽しくお話をしたことが忘れられません。

あの時の先輩方のように、暖かく包み込むようなおばあちゃんになりたいと思いながら、どれだけ若い人達に寄り添えているのかと自問自答しています。私達の協議会もそうですが、社会全体が、若い方からお年寄りまで様々な世代が交流し、互いに理解しあうことが大切だと思います。

各　種　窓　口

農林業の新たな取り組みに関するご相談

新川農林振興センター					
農業	〒938-0801	黒部市荻生 3200	黒部庁舎	担い手支援課　経営支援班	TEL 0765-52-0268
林業	〒937-0863	魚津市新宿 10-7	魚津総合庁舎３Ｆ	森林整備課　林政・普及班	TEL 0765-22-9143
富山農林振興センター					
農業	〒930-0088	富山市諏訪川原 1-3-22	諏訪川原庁舎	担い手支援課　経営支援班	TEL 076-444-4521
林業	〒930-0096	富山市舟橋北町 1-11	富山総合庁舎３Ｆ	森林整備課　林政・普及班	TEL 076-444-4476
高岡農林振興センター					
農業	〒933-0806	高岡市赤祖父 211	高岡総合庁舎２Ｆ	担い手支援課　経営支援班	TEL 0766-26-8474
林業		同	４Ｆ	森林整備課　林政・普及班	TEL 0766-26-8454
砺波農林振興センター					
農業	〒939-1386	砺波市幸町 1-7	砺波総合庁舎３Ｆ	担い手支援課　経営支援班	TEL 0763-32-8111
林業		同	２Ｆ	森林整備課　林政・普及班	TEL 0763-32-8131

農林漁業への就業に関するご相談

公益社団法人　富山県農林水産公社			
〒930-0096	富山市舟橋北町４-19 富山県森林水産会館６Ｆ	農業部	TEL 076-441-7396
	同	森林部	TEL 076-441-6747
	同	水産部	TEL 076-431-9595

富山県農山漁村女性活動推進会議　構成６団体　事務局

JA 富山県女性組織協議会		
〒930-0006	富山市新総曲輪 2-21 富山県農協会館７Ｆ　富山県農業協同組合中央会内	TEL 076-445-2340
富山県漁業協同組合女性部連合会		
〒930-0096	富山市舟橋北町４-19 富山県森林水産会館４Ｆ 富山県漁業協同組合連合会内	TEL 076-432-6222
富山県地域活性化グループ協議会		
〒930-0004	富山市桜橋通り５-13 富山興銀ビル 10F　富山県農林水産部農業技術課内	TEL 076-444-3277
富山県農業者協議会		
〒930-0096	富山市舟橋北町４-19 富山県森林水産会館６Ｆ（一社)富山県農業会議内	TEL 076-441-8961
富山県林業研究グループ協議会		
〒930-0004	富山市桜橋通り５-13 富山興銀ビル４Ｆ　富山県農林水産部森林政策課内	TEL 076-444-3387
富山県青年農業者協議会		
〒930-0096	富山市舟橋北町４-19 富山県森林水産会館６Ｆ（一社)富山県農業会議内	TEL 076-441-8961

発　行 / 富山県農林水産部
富山県農山漁村女性活動推進会議
2020年3月

［お問合せ］富山県農山漁村女性活動推進会議　事務局　富山県農林水産部　農業技術課
〒930-0004　富山市桜橋通り５-13　富山興銀ビル10F　TEL:076-444-3277　FAX：076-444-4409

富山県農山漁村女性活動推進会議の構成団体

JA富山県女性組織協議会　富山県漁業協同組合女性部連合会　富山県地域活性化グループ協議会
富山県農業者協議会　富山県林業研究グループ協議会　富山県青年農業者協議会